

「誕生日を重ねて」

黒田 朔



今月、85歳の誕生日を迎えた。「85歳」と言うと「お年寄り」だと思う。いや、事実、お年寄りだけれど、85歳を迎えた自分自身には「お年寄り」という自覚が乏しい。電車で席を譲られ自分のためとは気づかずにいると「せっかく譲ってくれたのだから、お座りになったら？」と言われて慌てたり、集会後に一テーブルを運ぼうとすると「私がやります」と代わられたりして、ポカンとする。年を取るとはこのギャップを生活の中で埋めて行く作業なのだろう。PCやスマホの使い方を教えてもらうだけでなく、時には、「85歳を迎えるコツ」を話せるようになりたいものだと思う。取り合えず、今年も「無試験で一つ歳を頂けた」ことを感謝しよう。亡くなった長嶋茂雄さんは89歳だったことも覚えつつ。

「ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家すべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。」（イザヤ46:3,4）